



脳トレは「脳が活性化している気がする! 楽しい!」と好評。じゃんけんで負けた人は、人差し指で勝った人の手の動きを追い掛けています。

隣に誰が住んでいるかよく分からない、知り合いがいなくて毎日が寂しい——。住宅の再建が進んでいる現在も、被災者は地域のコミュニティに不安を抱えています。被災地の医療福祉生協と共に健康相談を続ける神戸医療生協の取り組みを取材しました。

健康相談の活動は被災者の孤立化防止の役割も

神戸医療生協は、2カ月に1回、宮城県亶理郡山元町を訪れ、被災した方々を対象に健康相談を行なっています。みやぎ県南医療生協と連携し、2011年9月から継続している支援活動です。

取材に伺った日は、株式会社ナガワ・仙台工場内仮設住宅（亶理郡）の集会所と牛橋区民会館で、健康チェックと脳トレ（じゃんけんを使って頭と体を動かすゲーム）を実施。「食欲はありますか」「夜はぐっすり眠れていますか」。血圧・体重・体脂肪を測り、前回の数値と比べながら職員が体調を尋ねます。健康チェックを受けた住民は、体調の変化や日ごろの生活で気になっていたことについて相談していました。趣味やこの地域の食文化へと話題が広がると、時折笑顔も見られ会話を楽しんでいるようでした。

「神戸医療生協は、東日本大震災の被災翌日から被災地での医療支援に取り組んだ後、山元町を訪問するようになりました。被災した自治体に電話をして、支援の承諾をいただいたのがここ山元町だったのです。それ以来、山元町を中心

被災地の医療福祉生協と共に健康相談に取り組む

神戸医療生協 みやぎ県南医療生協



血圧・体重・体脂肪を測ることで、毎日の生活を見直すきっかけになっています。



脳トレのほかに、みやぎ県南医療生協の機関紙に掲載されている間違い探しでも盛り上がりました。



転居する人が増え、空き家が多くなった仮設住宅。自治会長の岩佐さんは「最後まで残り、みんなの転居を見届ける」と話します。



神戸医療生協の圓尾育代さん(写真左)と青手木 努さん。「実際に訪問して被災された方からお話を伺うと、震災の記憶を風化させてはいけないとあらためて思いました。この想いをもち帰って、機関紙などできちんと伝えたいです」(今回初めて参加した圓尾さん)

に支援活動を行なっているみやぎ県南医療生協さんと連絡を取り合い、健康相談や脳トレなどを行なってきました。この活動には被災者の孤立化防止という側面もあります」と神戸医療生協 健康まちづくり部の青手木 努さんは、これまでの活動を説明します。

神戸医療生協は「励ましてくれる存在」

今回訪問した仮設住宅には最大で約130世帯が入居していましたが、復興公営住宅や自立再建した住宅への引越しが進み、今では24世帯に減少しています。しかし、ここでは健康相談のほかにもカラオケ大会などの催しが多く、復興公営住宅へ引越した人も参加することがあるそうです。

仮設住宅の自治会長を務める岩佐徳義さんは「みんなで集まると『仮設住宅のほうがいい』と話す人もいます。『仮設住宅のほうがいい』と話す人もいます。こうして顔を合わせる機会が多いのはありがたいですね。復興公営住宅でもこういう環境づくりが必要だと感じています」と話してくれました。

みやぎ県南医療生協 常務理

事 児玉芳江さんは神戸医療生協を「背中をたたいて励ましてくれる存在」だと話します。震災から3年が経過すると、民間のボランティアは徐々に撤退。みやぎ県南医療生協も今後の支援活動のあり方について悩みましたが、今までの支援活動を思い出して「神戸医療生協が必ず来てくれるから、私たちも頑張ろう」と元気づけられたそうです。

二つの震災で得た経験をさらに生かしていく

神戸医療生協が活動を継続している理由の一つに、1995年に発生した阪神・淡路大震災を多くの職員が経験したことが挙げられます。

「阪神・淡路大震災で被災した方々が住む復興公営住宅などでの孤独死のニュースも多く、『住宅の完成』復興』ではないことを神戸に住む私たちは知っています。新しい生活場所でコミュニティが築けず、寂しい思いをしている方が多いことも震災の被害です。被災地をめぐる状況は刻々と変わっていますが、みやぎ県南医療生協さんと協力しながら健康相談を続けていきたいですね」(青手木さん)

※1 ユニットハウスなどの製造・販売・賃貸事業を行なう(株)ナガワが提供している、仙台工場内に作られた仮設住宅。主に宮城県巨理郡山元町の方々が生きています。

※2 阪神・淡路大震災や東日本大震災で被災された方向けの住宅として、比較的低廉な家賃で入居できる公営住宅。

さらにさまざまな自然災害で被災された方々の復興を応援し、防災の活動も広がっていくと、2013年3月には神戸医療生協を中心に一般社団法人INGを設立しました。兵庫県内の生協へも活動の輪を広げながら、同生協は今まで以上に被災者の想いに応える活動に取り組んでいく予定です。



みやぎ県南医療生協 常務理事 児玉芳江さん



(株)ナガワ・仙台工場内仮設住宅 自治会長 岩佐徳義さん